

生産性の飛躍的な向上による国内農業の競争力強化

主な政策課題	研究開発の方向
<p>コメの生産コスト削減*</p> <p>主食用 → 4割</p> <p>飼料用 → 5割</p>	<p>ICT・ロボット技術の開発・実用化とあわせ、コメの単収ポテンシャルを2～3倍程度(1.5トン/10a目標)にアップ</p>
<p>海外市場の開拓*</p> <p>2020年 → 輸出額1兆円</p> <p>2030年 → " 5兆円</p>	<p>果樹、花き等の育種期間を半減し、「強み」のある新品種を次々と作出し、海外への輸出を支援</p>

*印の目標は、平成27年6月に閣議決定された「日本再興戦略」改訂2015におけるKPI数値。

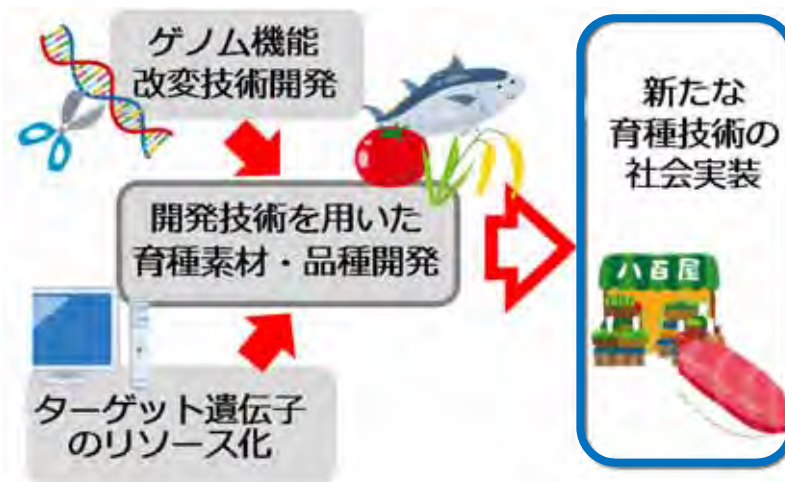
国民の健康長寿ニーズに対応した農産物の提供

<p>健康長寿社会の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年には65歳以上が3割超 ・生活習慣病や認知症の予防 	<p>農林水産物に含まれる機能性成分の特性解明等(食品機能性G)とあわせ、機能性成分等に富んだ農産物の開発・提供</p>
---	---

水産資源の持続的な利用と安定供給

<p>水産資源の持続的な確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マグロ、ウナギ等の漁獲規律が強化 	<p>完全養殖用マグロ品種の開発など、養殖管理に適した魚種や種苗管理技術の確立</p>
--	--

【フ・内科01】SIP「新たな育種体系の確立」主な研究成果



ゲノム編集技術を活用した**画期的な新しい農作物品種を開発**するとともに、それらが**社会に受け入れられるための具体策**を提示することにより、開発された画期的な農作物等の社会への浸透に貢献

【主な研究成果】

ゲノム編集技術の開発・改良

- ゲノムを切る酵素の立体構造を解明



酵素の設計の自由度向上等により、我が国独自のゲノム編集技術開発に向け前進

画期的な農水産物の開発

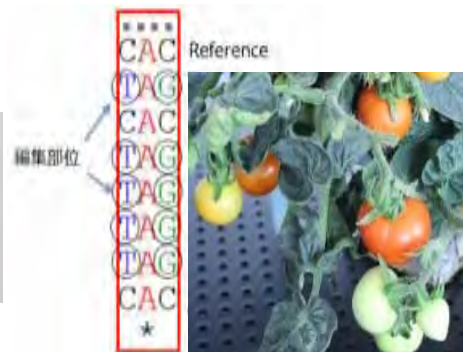
- 世界初の**ゲノム編集マグロ**を開発
- 受粉等のコストを削減可能な**ゲノム編集トマト**を開発
- 高生産能力につながる**ゲノム編集イネ**を開発



消費者等のニーズの変化に対応可能な農水産物の提供へ



ゲノム編集したマグロ



ゲノム編集したトマト



ゲノム編集したイネ